

高齢者をとりまくコミュニティの実態 (鹿児島県笠沙町の事例)

友 清 貴 和*・古 川 恵 子**・櫻 井 亜 衣***

A Study on the Community of the Elderly.
(using Kasasa-cho in Kagoshima prefecture as a Model)

Takakazu TOMOKIYO, Keiko FURUKAWA and Ai SAKURAI

This report is a study about the situation of the environments surrounding of the elderly in a community. We examined an area with many elderly people in Kagoshima prefecture. This study considers the factors supporting the lives of the elderly. We presented questionnaires to persons of 40 years or older in Kasasa-cho. As a result, it became clear that there are many people doing horticulture and fishing. As age and the number of years lived increase, there is a change in the field of society activity. Depending on the area the social activities differs. Neighborhood interaction can be active. The characteristic features of the social activities differ from village to village.

1. はじめに

出生率の低下と高齢者人口が増加を続け高齢化が進む現在、親世帯と子世帯の同居率は低下し、高齢者のいる世帯では、単独世帯及び夫婦のみの世帯の割合が大きくなっている。

地方地域においては特に、過疎化と高齢化が進行し、高齢者人口が増加している。高齢者の多くは、長年住み慣れた地域で今後も生活することを望んでいる。

高齢者が自らの意志により、可能な限り自立した生活を営むには、行政による公的支援は不可欠であるが、現状では十分とはいえない。施設ケアから在宅ケアへと福祉行政が変わる中、高齢者をとりまくコミュニティが重要な要素となってくる。また、一方、地域の高齢者の多くは定住年数も長く、生活基盤を居住地に持ち、心身が健康であるため、地域社会の一員として社会活動に参加し役割を持つことが可能である。とりわけ、健康な高齢者が、身体的、精神的な面から支援を必要とする高齢者と関わりを持つことが期待される。

2. 研究の目的

高齢者の生活支援実態については、これまで農村住居の住まい方や福祉施設に関する分野、都市計画的分野で研究がなされてきた。本研究は以上の認識のもとに、高齢化、過疎化の進む農、漁村と山間地域を対象とし、それぞれの地域での人々のつき合いや社会参加等の実態から高齢者の生活を支える要因を考察する。そして、今後の高齢者の生活環境に求められる要件を抽出することを目的とする。

3. 研究の方法

鹿児島県は高齢化率20.9%（総務庁）である。本研究では、高齢化率37.8%の笠沙町を対象とした。笠沙町は、町内に農・漁・山村集落を抱える過疎町である。また、急傾斜山間地が多く、密度の高い昔ながらの集落が残っている。40歳以上の全町民を対象に、社会活動への参加状況や、近隣、親戚とのつき合い、地域の人々と高齢者ののかかわり方を、アンケート調査を行い分析・考察した。

4. 調査の概要

4-1. 調査方法

平成10年8月に3集落の高齢者数人、9月に職業上高齢者と関わりのある郵便局の職員にヒアリング調査を行い、アンケート調査用紙を作成した。

平成11年5月31日受理

*建築学科

**鹿児島女子短期大学

***博士前期課程建築学専攻

調査期間は、平成10年11月。調査は、笠沙町に委託した。調査の回答を得られたのは、40歳から64歳が895人、有効回収率68.4%，65歳以上が1264人で有効回収率85.5%，年齢不明94人であった。

4-2. 調査地区の概要

笠沙町は薩摩半島の西南端に位置し、東シナ海に面する周囲は典型的なアス式海岸が続き、25の集落からなる。町の一部に平坦地がある他はほとんど傾斜地である。

4-3. 調査項目と主な調査結果

今回の調査項目と調査結果(単純集計)は以下【Table 3】のとおりである。

5. 調査結果と分析

5-1. 調査対象者の属性

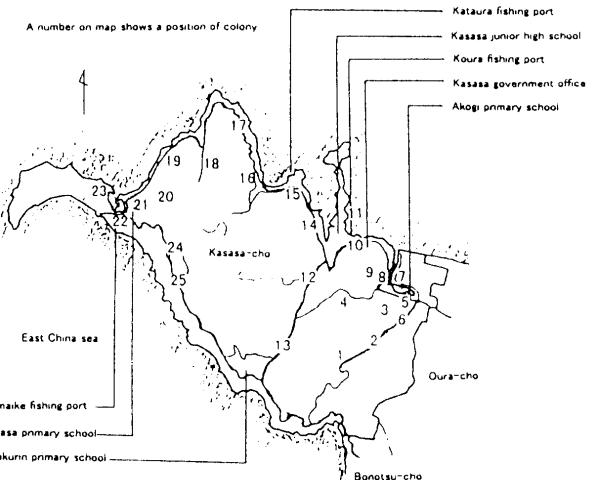
調査対象者の56.1%が65歳以上の高齢者である。75歳以上の人の割合が最も大きい集落は、25(41.4%)で、17, 3と続く。(以下、集落名は【Table 2】参照)居住年数40年以上が63.6%を占める。居住年数40年以上の割合が70%以上と大きい集落は、集落17, 18, 13, 24, 25,

【Table 1】 An abstract of Kasasa-cho

Population	3967 persons
40-64year-old population	1371 persons(34.6%)
65-74year-old population	867 persons(21.9%)
75year-old or more population	634 persons(16.0%)
Aging rate	37.80%
Primary industries	34.10%
Secondary industry	22.90%
A the tertiary industry	42.90%

【Table 2】 The number of colony

Colony name	The number of people	Colony name	The number of people
1 Ichisakikoba	36	14 Niozaki	107
2 Matsukoba	56	15 Kataura	237
3 Kasaishi	85	16 Ooto	148
4 Sanya	43	17 Kozakiyama	13
5 Shinden	75	18 Taniyama	28
6 Namiki	45	19 Kozaki	12
7 Hamada	9	20 Uoji	27
8 Shimizu	73	21 Yamagami	42
9 Kasamatsu	66	22 Nomaike	163
10 Kamimura	62	23 Misaki	120
11 Koura	263	24 Tarokoba	68
12 Shiinoki	104	25 Uba	29
13 Kurose	324		



【Fig. 1】 Kasasa-cho colony configuration

【Table 3】 Findings abstract

Investigation item	Answer item	The number of people(%)	Investigation item	Answer item	The number of people(%)
Age	40-54year-old	396(17.6)	Presence of a child	There are you	1948(86.5)
	55-64year-old	499(22.1)		There are not you	271(12.0)
	65-74year-old	755(33.5)		I am indistinct	34(1.5)
	75year-old or more	509(22.6)	The person whom there is a child living apart (40-64year-old)	During a thing of colony	39(6.9)
The distinction of sex	I am indistinct	94(4.2)		Among towns	37(6.5)
	A man	870(38.6)		Outside of a town	62(11.0)
	A woman	1352(60.0)		Within the prefecture	258(45.7)
An occupation	I am indistinct	31(1.4)		Outside the prefecture	169(29.9)
	Public employee-company employee	227(10.1)	The person whom there is a child living apart (65year-old or more)	During a thing of colony	162(15.3)
	Agriculture and forestry fishery	354(15.7)		Among towns	122(11.5)
	The self-supporting work	129(5.7)		Outside of a town	144(13.6)
	I am jobless	1432(63.6)		Within the prefecture	329(31.1)
	The others	56(2.5)		Outside the prefecture	302(28.5)
	I am indistinct	55(2.4)	Presence of a relative in colony	There are you	1961(87.0)
Several a year residence	0-19years	362(16.1)		There are not you	225(10.0)
	20-39years	441(19.6)		I am indistinct	67(3.0)
	40years or more	1433(63.6)	A relative goes together	I go together well	1884(69.0)
	I am indistinct	17(0.8)		I go together sometimes	337(15.0)
Family morphology	Living alone	420(18.6)		I do it almost	28(1.2)
	Only man and wife	870(38.6)		I am indistinct	109(4.8)
	Man and wife and a child	390(17.3)	Number of a friendly friend	0 persons	96(4.3)
	The third generation living together	166(7.4)		1-2 persons	446(19.8)
	Oncself and the elderly	151(6.7)		3-4 persons	634(28.1)
	The others	222(9.9)		5 persons or more	989(43.9)
	I am indistinct	34(1.5)		I am indistinct	88(3.9)

19, 11, 20で、最も少ない集落の割合は22.2%である。

居住年数0～19年の人々は、7, 19にはいない。

男性数：女性数は1：1.55で女性が多い。高齢者の男女比は、1：1.72である。

職業は、無職が多い。家族形態は「ひとり暮らし」と「夫婦のみ」世帯の合計が57.2%である。「ひとり暮らし」の第1, 2位は17と19で、集落の46.2%と41.7%である。17は「夫婦のみ」世帯の割合が第1位で46.2%である。

「ひとり暮らし」の80.0%は高齢者であり、「夫婦のみ」の60.9%は高齢者である。また高齢者の26.6%はひとり暮らしである。

5-2. 職業と無職の人の日ごろの過ごし方

年齢別にみると、40～54歳は公務員・会社員が最も多く、55歳以上は無職が最も多い。

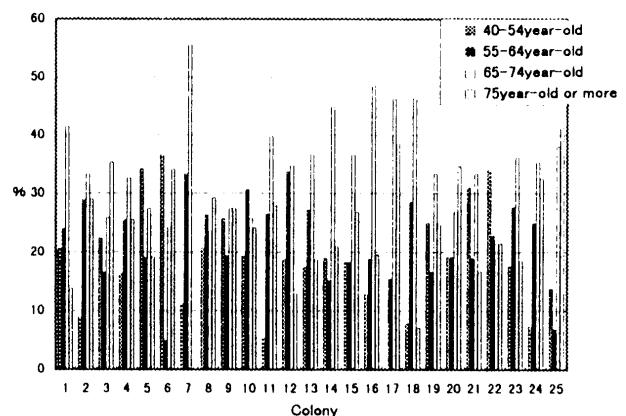
「無職」の半数以上の人々が畑つくりをしている集落がある。それは、1, 3, 4, 12, 13, 19, 20の内陸部の集落である。魚とりをする人が多い集落は9, 14, 11で、いずれも海岸から近い。日ごろの過ごし方は地理的環境と関係があることがうかがえる。

「無職」の人の日ごろの生活内容は、畑つくり（37.3%：複数回答）、家事のみ（34.5%）、何もしていない（20.3%）、その他、魚とり（6.5%）、近所の手伝いの順である。畑つくりをする人の71.9%と魚とりをする人の68.8%が高齢者である。

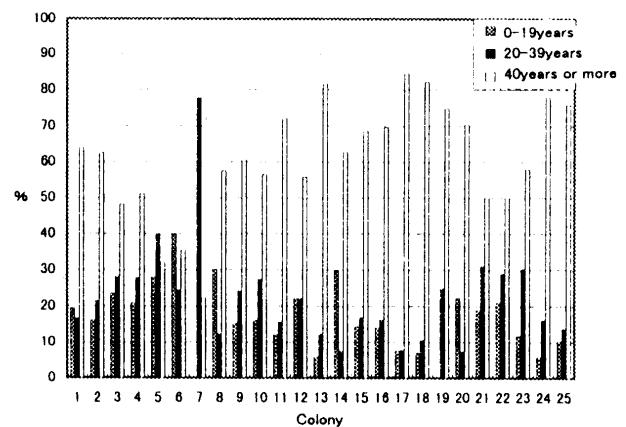
また、畑つくりをする人は女性が多い。男性で魚とりをする人は女性よりも多い。女性で魚とりをする人は1.2%いる。男性で何もしていない人が38.6%いるが、女性で何もしていない人は14.3%である。男女の違いがみられる。

5-3. 社会参加状況

全体では、「講・お墓・お寺参りなど」への参加が多く（63.7%）、「自治会・婦人会」「農・漁・商工などの組合」と続く。「講・お墓…」は、年齢が高くなるほど、居住年数が長くなるほど、男性より女性が大きい割合で参加している。集落別にみると、全体で参加率の最も高い「講・お墓…」に多く参加しているのは、海に面した19, 17, 15と、町役場のある町中心部とは野間岳で隔てられている25, 24である。年齢別にみると、40～54歳は「自治会・婦人会」への参加が最も多く約半数が参加している。55歳以上は年齢が高くなるほど「講・お墓…」が増えて、他の集まりは減っている。なお、老人会への参加率は65～74歳の19.9%から75歳以上の41%へ急増している。男性が女性よりも多く参加するのは「農業・漁・商工…」である。なお、参加する集まりにデイサービスと答えた人が20人余りいる。



【Fig. 2】 Age constitution according to colony



【Fig. 3】 Several a year residence according to colony

5-4. 親しい友人とのつきあい

親しい友人人数は男女とも5人以上というものが最も多く、親しい友人とのつきあいの場は、前項同様、「講・お墓・お寺参りなど」が多く「自治会・婦人会」が続く。

集落別にみると、「講・お墓…」は、19, 17, 18, 24に多い。「自治会・婦人会」は、17, 20の集落が目立って多い。年齢別にみると、40～54歳は「趣味の会」と「運動・健康づくりの会」が多く、55歳以上になると「講・お墓…」が最も多く、加齢とともに割合が高くなる。逆に、「趣味の会」、「教育・学習の会」、「運動・健康づくりの会」は減っていく。性別にみると「老人会」に参加する女性の数は男性の3.7倍になる。

5-5. 近所づきあい

全体の90%が「親しいつきあい」か「世間並みのつきあい」をしており、また女性の方が親しい付き合いをする人が10%多い。居住年数が長くなるほど親しいつきあいが多くなる。集落別にみると、17は親しいつきあいを、している人が76.9%と最も多く、19がこれに続く。そして両集落とも、親しいつきあいと世間並みを合わせると

【Table 4】Contents of a neighborhood goes together

	Borrow and loaning daily necessities	Distribute a present	Care of a child of a neighborhood man	Care of an old man of a neighborhood	Care at being ill	A caretaker of a neighborhood	Consultation of cares	A chat occasion	A help of ceremonial occasion	Cleaning of a neighborhood occasion	A help of shopping	Movement · Health structure	A meeting of hobby	Unit (%)
The whole	16.2	64.1	4.2	11.2	15	6.4	20.3	82.5	61.6	35.6	12	14	7.3	
1. Ichinokubo	18.2	54.5	12.1	23.2	51.6	9.6	28.3	81.8	69.7	33.3	15.2	42.4	9.1	
2. Matsukoba	13.5	63.5	5.5	0	23	44.2	10.1	0	13	65.5	65.2	47.8	2.9	
3. Kessishi	24.6	69.6	1.4	23.2	10.1	0	13	85.5	73	21.2	19.2	59.6	17.3	
4. Sanya	13.5	29.7	8.1	13.5	8.1	10.6	81.1	91.9	24.3	13.5	45.9	8.1		
5. Shinden	22.7	56.1	7.6	13.6	13.6	4.5	25.6	87.9	54.5	21.2	10.6	19.7	18.2	
6. Namiiki	13.5	43.2	13.5	5.4	2.7	24.3	81.1	81.1	56.8	51.4	2.7	13.5	0	
7. Hamada	12.5	50	0	12.5	0	0	37.5	75	62.5	50	0	0	0	
8. Shimizu	3.3	36.1	0	4.9	9.8	4.9	19.7	88.5	42.6	18	6.6	6.6	3.3	
9. Kasamatsu	17.9	50	0	8.9	19.6	1.8	16.1	69.6	39.3	10.7	5.4	5.4	7.1	
10. Kamimura	19.3	78.9	1.8	10.5	14	3.5	8.8	73.7	59.6	22.8	15.8	24.6	10.5	
11. Kuira	5.7	77	3.5	5.7	7.8	1.7	26.5	87.4	83.9	11.7	8.7	0.9	5.2	
12. Shiroki	12	71.7	3.3	12	15.2	5.4	20.7	79.3	80.4	50	7.6	20.7	9.8	
13. Kurose	18.3	58.2	2.9	9.5	14.7	7	19.4	78	41.8	19.8	12.5	1.5	2.9	
14. Niouraku	8	77	9.2	8	10.3	3.4	19.5	88.5	59.8	54	6.9	5.7	13.8	
15. Kataura	20.9	84.7	5.1	12.8	17.3	14.3	21.9	86.2	69.4	60.7	18.4	22.4	9.7	
16. Ooto	14.1	57.7	2.8	9.2	5.6	9.9	16.2	83.1	54.9	53.5	11.3	17.6	9.9	
17. Rozaikyama	15.4	46.2	0	15.4	23.1	23.1	19.4	83.8	53.8	76.9	23.1	15.4	0	
18. Tanigama	13.5	53.5	3.5	7.1	19.2	5.5	33.3	73	80.8	61.5	22.2	11.5	0	
19. Kozaiki	58.3	75	0	8.3	50	23	16.7	83.3	100	100	33.3	8.3	0	
20. Ugi	39.1	73.9	0	13	4.3	0	13	82.6	65.2	47.8	26.1	0	0	
21. Yamagami	33.3	60.6	12.1	30.3	0	30.3	69.7	69.7	51.5	21.2	6.1	6.1		
22. Nomaike	13.2	47.9	4.9	9.7	6.3	12.5	79.9	79.9	31.9	5.6	4.9	6.9		
23. Misaki	22.6	67	8.5	9.4	22.6	8.5	22.6	90.6	90.6	40.6	16	13.2	5.7	
24. Tarokoba	4.6	50.8	0	16.9	15.4	6.2	20	80	44.6	12.3	12.3	3.1		
25. Uba	0	66.7	0	22.2	3.7	0	18.5	88.9	88.9	37	14.8	3.7	0	

100%になる。17は集落の中で唯一40~54歳が0人で、高齢者の割合が84.6%である。

5-6. 近所づきあいの内容

全体では、「世間話」が最も多く(82.5%),「おすそわけ」、「冠婚葬祭の手伝い」(61.6%),「近隣の掃除」と続く。「世間話」をする割合は、女性が男性より多い。

集落別に、近所づきあいの特徴がみられる。その内容は【Table 4】のとおりである。近所づきあいをさまざまな内容で活発に行っているのは、18, 19, 15, 1, 2

であるが、集落の多くの人が行っていることを表す最大値を、多くの項目にわたって示すのは18と19である。

日常的なつきあいとしての世間話、おすそわけ、近隣の掃除、心配ごとの相談、日用品の貸し借り、買い物などの手伝いと、非日常的な冠婚葬祭の手伝いがあるが、これらの内容についても、18と19はよくなされている。

年齢別にみると、「世間話」をする人の割合は年齢が高くなるとともに大きくなっている。75歳以上は91.1%と格段に大きい。65~74歳の「ひとり暮らし」の高齢者になるとさらに93.7%と高くなる。

5-7. 近所づきあいがよくされている集落の状況

集落別近所づきあいの内容を【Table 4】に表す。13の選択項目において、各集落の回答率を示した表である。第1位の集落の回答率をハッチングで示す。各選択項目で第3位までの回答率を含める項目の合計数が多い集落は18, 19, 1, 2, 17, 20である。

【Fig. 1】に示すように、これら6集落のうち、1, 2は内陸部に位置し、17, 18, 19, 20はリアス式海岸に連続して位置する。また、集落の回答者数は1が36人、2が56人、17が13人、18が28人、19が12人、20が27人と、小規模の集落である。

年齢層は6集落とも、65歳から74歳までが最も多く、職業の第1位は農林水産業と無職が、半々である。無職の人が日ごろしていることは、6集落とも「畠つくり」が最も多い。

6集落とも、居住年数が40年以上の人が最も多い。

家族形態で最も多いのが、「夫婦のみ」が4集落で、「ひとり暮らし」が1集落、「両方が半々」が1集落という状態である。

6集落とも親類が「いる」であり、「よくつきあう」が75%から95.0%で非常に多い。

参加する集まりでは、「講・お墓・お寺参りなど」が最も多く、友人づきあいでは、「講・お墓・お寺参りなど」「自治会・婦人会」「農・漁業・商工などの組合」が多い。

よく話をする相手としては、「医師・看護婦」と「郵便配達の人」が多い。【Table 4】には示されていないが、「よく話をする」と「時々話をする」を併せると全集落では、「店の人」が多い。

5-8. 話し相手と話す頻度

全体では、「店の人」と話をする人が多い。「よく話をする」と「時々話をする」人と加えると87%になる。次が「医師・看護婦」で、「郵便配達の人」、「お寺」と続く。最も多くの人が話し相手とする「店の人」とよく話をする割合の高い集落は、25, 24, 17である。また、

「医師・看護婦」とよく話をする集落は、17（90%）と25（70.4%）である。高齢者が「よく話しをする相手」は「店の人」（40%）、「医師・看護婦」（39%）、「郵便配達の人」（18%）である。【Table 5】

5-9. 外出行動と近隣関係

外出方法と目的についてみると。「徒歩」で出かける目的は、「田畠や海などの仕事」が最も多く（48.9%）、「子供や親類や友人宅」（43.3%）が続く。75歳以上では、「買い物」、「子ども・親類・友人宅」が最も多い。徒歩で行ける範囲に知り合いが多いことが分かる。「自転車・バイク」は「買い物」（7.8%）や「銀行・郵便局」へ行くのによく使われるが、年齢でみると、75歳未満は、「買い物」に行くときが最も多く、75歳以上は銀行・郵便局行きに使われている。「自動車」は病院へ行くため（40.4%）と「買い物」によく利用されている。「バス」は「病院」へ行くために利用する人（20.5%）が圧倒的に多い。

自動車を自分で運転する人は多い。一方、「近所の人」

【Table 5】 A person to talk
and the frequency which is told

	Talk well	Talk sometimes	Not so much
A person of a mail carrier	17.4 (68.5)	55.8 (58.0)	26.8 (66.5)
A person of newspaper or milk delivery	10.8 (53.8)	32.1 (53.8)	57.1 (68.7)
A person of YAKURUTO.DASUKIN delivery	10.9 (52.6)	27.1 (49.2)	62.0 (65.7)
A person of collection of money	14.1 (58.8)	45.4 (58.2)	40.0 (67.9)
A canvasser of the insurance and bank	12.9 (60.2)	32.7 (51.5)	54.4 (68.1)
A person of a store	46.2 (60.9)	40.9 (59.1)	12.9 (71.5)
Migration sale	14.1 (66.8)	27.2 (59.5)	58.7 (63.4)
A doctor, a nurse	37.2 (76.6)	40.6 (58.1)	22.2 (52.0)
A temple	15.2 (72.2)	43.9 (66.9)	40.9 (58.6)
A welfare commissioner	17.9 (75.9)	31.5 (68.9)	50.6 (57.8)
The others	12.3 (36.0)	16.7 (52.9)	71.1 (37.9)

() shows a ratio of a person of advanced age.

【Table 6】 Driving person of a car at going out

	driver			
	by oneself	family	neighborhood	taxi
The whole	50.2	25.2	12.6	14
1 Ichisakikoba	50	38.5	7.7	7.7
2 Matsukoba	39.5	36.8	2.6	21.1
3 Kasaishi	50	25.9	3.7	20.4
4 Sanya	48.1	40.7	0	11.1
5 Shiniden	70.2	17.5	7	5.3
6 Namiki	56.4	41	0	5.1
7 Hamada	83.3	0	0	16.7
8 Shimizu	65	32.5	0	5
9 Kasamatsu	60	13.3	6.7	20
10 Kamimura	66.7	20	13.3	0
11 Koura	55.6	21.3	8.3	15.7
12 Shinonoki	54.3	28.6	11.4	8.6
13 Kurose	44.9	22.4	16.4	17.3
14 Niouzaki	45.3	24	20	10.7
15 Kataura	48.1	27.1	9.3	18.6
16 Ooto	35.2	33.8	28.2	5.6
17 Kozakiyama	40	20	0	40
18 Taniyama	50	35.7	14.3	0
19 Kozaki	75	25	0	0
20 Uoji	43.8	25	25	31.3
21 Yamagami	75	18.8	6.3	12.5
22 Nomaike	64.8	17.6	6.6	14.3
23 Misaki	44.4	18.5	16.7	20.4
24 Tarokoba	30.9	27.3	29.1	14.5
25 Uba	19.2	19.2	42.3	23.1

に乗せてもらう人が、自動車利用者の12.6%いる。日ごろの近隣関係の親しさをうかがわせる。近所づきあいとの関係をみると、「自分」や「同居の家族」が運転する人や「タクシーに乗る」人よりも、「近所の人に乗せてもらう」人の方が、「世間並み」よりも「親しいつきあい」（54.0%）をよくしている人が多い。

集落別にみると、乗せてもらう人の割合が高いのは、25（42.3%）で、あと24（29.1%）、16（28.2%）と続く。タクシー利用者が多いのは17、20、25である。

外出頻度の高い集落は17、7、20である。

6. まとめ

高齢者率が高く、現在の集落での居住年数の長い人が多い。また、集落による違いもみられる。高齢者のひとり暮らしは、26.6%，夫婦のみが41.9%である。ひとり暮らしの高齢者のうち、87.9%は女性である。人口性比（男性人口／女性人口）64.3と女性が多い。高齢者の人口性比は58.1で、さらに女性が多い。無職の人が多いが、地理的条件を生かして畑つくりをする人が多く、また高齢者が多い。魚とりをする人にも高齢者が多い。25の集落からなり、居住人数に開きがある。笠沙町における40歳以上の人々の地域社会におけるつきあいは、①社会参加の状況については、「講・お墓・お寺参り」への参加が多いが、居住者の多くが参加している集落では、近所づきあいもさかんに行われている。②年齢が高くなり、居住年数が長くなるに伴い、老人会への参加率が増え、また自治会・婦人会への参加から講・お墓参り・お寺などへの参加率が増えること、友人づきあいの場もまた同様であることがわかった。③親しい友人数が5人以上という人が最も多く、多様なつきあいが想定できる。④近所づきあいは全体的に親しくされているが、特に多面的に親しいつきあいをしている集落がある。それらの集落は小規模で、地理的特徴もある。近所づきあい以外にどういう人間関係があるのか、地域の状況も含めて今後検討すべきと考える。⑤つきあいの内容は世間話、おすそわけが多く、冠婚葬祭の手伝いもよくされている。集落によって、つきあい方の違いがあることがわかつたが、その理由を探る必要がある。また、多くの人が話の相手を店の人と答えた理由についても同様である。特に⑥「近所の人が運転する」自動車に乗せてもらう人がある程度いることがわかつたが、その人たちの日ごろのつきあいや生活についても検討していきたい。今後、社会活動や人々の関わり方と、施設配置、リアス式海岸沿岸部や山間地という地理的な関連を全体的に検討する必要がある。

最後に、調査にご協力いただいた笠沙町の方々、並び

に笠沙町役場の建設課と住民課の方々に厚く御礼申し上げます。

〈参考文献〉

1. 総務省；高齢社会白書（平成10年版），平成10年
2. 笠沙町；町勢要覧平成10年度版，1998年
3. 鹿児島県企画部統計課；年齢（各歳）男女別人口
(平成9年10月1日現在) エクセルファイル
4. 笠沙町住宅マスターplan報告書 平成9年3月
5. 高齢者保険福祉実態調査 統計編 平成5年度 笠沙町